

第2節 第2次計画における取組状況と課題

1. 主な取組状況

第2次計画では、3つの基本目標のもとに9つの推進の柱をたてて、各施策に取り組みました。

なお、令和元年度の後半からは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策(以下、「新型コロナ対策」という。)を行いながらの実施となりました。

(1) 家庭・地域・学校における子どもが本に親しむ機会の充実

① 家庭における読書機会の充実

- ・入曽地域交流センター、総合子育て支援センター、子育てプレイス、児童館、青い実学園、公民館、図書館では、家庭で行う読み聞かせの楽しさや大切さを伝えるため、未就学児とその保護者を対象に、職員やボランティアによる読み聞かせやおはなし会を実施しました。
- ・入曽地域交流センター、保育所、幼稚園では、家庭での読み聞かせや本の利用を促進するため、絵本や本の貸出しを行いました。新型コロナ対策で貸出しを中止した時期もありました。
- ・総合子育て支援センターでは、「ちゃっぼ通信」の中で本の紹介を行いました。保育所では図書だよりを発行しました。保育所保護者会の賛同を得て、クリスマスに子どもに絵本をプレゼントする事業を行う保育所もありました。
- ・保健センターの「ぱくぱくベビー」(親と子の教室)の中で、図書館職員が乳幼児にお薦め本のリストを配布するとともに、親子のコミュニケーションツールとして絵本活用の効果を体験する機会とし、読み聞かせの大切さや図書館の利用方法をお知らせしました。
- ・幼稚園では、保護者を対象に絵本や読み聞かせについての講演会を開催しました。



読み聞かせ「おたのしみ会」



親と子の教室「ぱくぱくベビー」

② 地域における読書機会の充実

- ・総合子育て支援センター、子育てプレイス、児童館、学童保育室、富士見集会所、公民館では、発達の段階や年齢層に合わせたおはなし会や本の紹介を行いました。また、本に関連づけたクッキング教室、工作教室、お誕生会などのさまざまなイベントを通じて、子どもが本に興味を持つきっかけとなるような取り組みを行いました。
- ・図書館では、小学生向け事業として、おはなし会やブックトーク¹、ビブリオバトル²、工作など様々な事業を実施したほか、相談や質問に対応するレファレンスサービス³を行いました。
- ・新型コロナ対策で図書館が休館となった時期には、子どもの読書活動を支援する方法として、対象年齢に合わせて選んだ本5冊を梱包し「お楽しみパック」として貸出しする事業を実施しました。



おはなし会「クリスマス会」



市民文化祭「おはなし会」

1 ブックトーク

あるテーマに沿って様々なジャンルから選んだ本の内容を紹介し、読書意欲を引き出す活動

2 ビブリオバトル（書評合戦）

参加者が読んで面白いと思った本を一人5分間で紹介し、全員で意見交換を行う。全員の発表後、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ、本の紹介コミュニケーションゲーム

3 レファレンスサービス

利用者からの資料や情報の求めに応じ、図書館の資料と機能を活用して、資料検索の援助や資料提供を行うサービス

③ 学校などにおける読書活動の充実

- ・ 保育所や青い実学園、幼稚園では、発達の段階や年齢層に合わせた絵本の読み聞かせを行いました。
- ・ 幼稚園では、小学校の図書委員による読み聞かせを行いました。また、新型コロナ対策で保護者が園内に入れなかった時期には、年齢層に合わせて選んだ3～5冊の本を春、夏、冬の長期休暇に貸出しする事業を行いました。
- ・ 小・中学校では、朝読書を推進したほか、図書館が行う学校への団体貸出、ブックトークや図書館利用教育の出前講座、図書館見学、中学生の体験学習などを活用し、読書活動の充実を図りました。また、図書委員会が行う「読書キャンペーン」により読書活動を推進しました。

④ ボランティアや団体との連携の推進

- ・ 入曽地域交流センターや児童館、富士見集会所、公民館、図書館、小・中学校では、ボランティアや団体との連携により読み聞かせやブックトーク、講演会などを実施しました。新型コロナ対策のため、事業を中止したり、ボランティアの受入を見合わせたりした時期もありました。
- ・ 図書館では、読み聞かせなどで使用する図書資料について、ボランティアや団体への貸出しを実施しました。

(2) 子どもの読書活動を推進するための環境の充実

① 身近に本のある環境づくり

- ・ 入曽地域交流センター、総合子育て支援センター、児童館、学童保育室、保健センター、公民館では、図書コーナーを設置し、身近に本を楽しめるよう働きかけました。
- ・ 図書館では、緊急事態宣言による休館中に、子どもの日常を支える学童保育室などへは希望する内容に応じて本を選定して貸出しを行いました。

② 図書館の充実

- ・ 図書館では、児童書の充実を図るとともに、子どもの本や読書活動に関連する質問や相談に対応しました。
- ・ 図書館に親しみを感じてもらえるよう、ボランティアの協力のもと、壁面や窓ガラスに装飾を行いました。
- ・ 図書館がお薦めする本の館内展示を行いました。
- ・ 移動図書館「さみどり号」の運行では、巡回場所の一部を幼稚園や小学校に設置していますが、令和元年度に巡回場所、巡回時間の見直しを行い、

利用の増加が見られました。

③ 学校図書館の充実

- ・学校図書館の蔵書管理などを行う学校図書館司書は、平成28年度は5名、平成29年度は6名、令和2年度には8名配置しました。市内全8校の中学校を拠点とし、担当中学校に週の半分、担当小学校に週1日を目安とした勤務体制により全小・中学校への配置を行いました。
- ・蔵書管理の電算化は、平成29年度は中学校に導入し、令和3年度には小学校も導入をはじめ令和4年度に完了しました。電算化によって蔵書の整理が進み、更に導入後は貸出しや蔵書管理が容易になり、生徒の利用増につながりました。
- ・学校図書館の運営・活動の実務担当者はほとんどの学校で、学校図書館主任と学校図書館司書の2人体制もしくは司書教諭を加えた3人体制となりました。
- ・学校図書館と市立図書館との情報交換会を開催し、その中で図書館から学校図書館に対し資料選定の支援を行いました。
- ・学校図書館の資料で不足するものについては、教諭の希望にあわせて図書館司書が選定する図書館資料の団体貸出を利用しました。

(3) 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

① 読書活動の啓発・広報の推進

- ・保育所、社会教育課、公民館、図書館、幼稚園、小・中学校では、ポスター掲示や各種イベントを通じて「家庭読書の日⁴」、「子ども読書の日⁵」、「こどもの読書週間⁶」の周知に努めました。

⁴ 家庭読書の日

「国民読書年」であった平成22年に、家庭での親子のふれあいなどを目的に、狭山市教育委員会が毎月23日を「家庭読書の日」と定めた

⁵ 子ども読書の日

平成13年に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」で毎年4月23日を「子ども読書の日」と定めた

⁶ こどもの読書週間

公益社団法人読書推進運動協議会が主催し、毎年4月23日～5月12日に実施している

② 子どもに薦めたい本の普及

- ・児童館、学童保育室、公民館、小学校では、図書館が団体貸出用に用意している「子どものときに読みたい本100冊」（以下、「さやまの100冊」⁷という。）パックを活用しました。小・中学校ではさやまの100冊を校内展示や図書館だよりなどで紹介し、読書の楽しさや意義を体得できるよう働きかけを行いました。
- ・図書館では、年齢層に合わせた児童・生徒向けの広報紙の発行や「としよかんがおすすめする はじめてのえほん」の改訂のほか、毎月おすすめの絵本やYA（ヤングアダルト）向けの本の紹介、展示を行いました。



読書週間展示

2. 目標の達成状況

第2次計画で掲げた目標の達成状況は、以下のとおりです。

なお、(3)については、令和3年度末時点での統計数値を、(1)(2)(4)(5)については、令和3年10月に実施した、市立の小学2年生、小学5年生、中学2年生の児童・生徒、及び小学5年生の保護者を対象とした「読書に関するアンケート」（以下、「アンケート調査」という。）の数値をもとに比較を行っています。

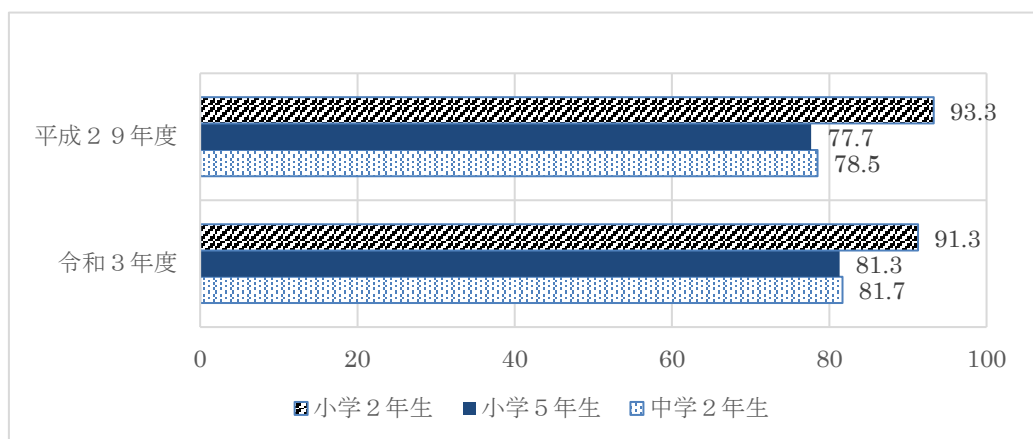
アンケート調査の結果については資料編（P47から）をご覧ください。

⁷ さやまの100冊

「国民読書年」であった平成22年に、狭山市教育委員会が、子どものときに読んでほしい本を、小学校低学年向け、中学年向け、高学年向け及び中学生向けの4つの年齢層に分け、それぞれ25冊ずつ選定したもの

(1) 「本を読むことが好き」あるいは「どちらかといえば好き」と答えた子どもの割合

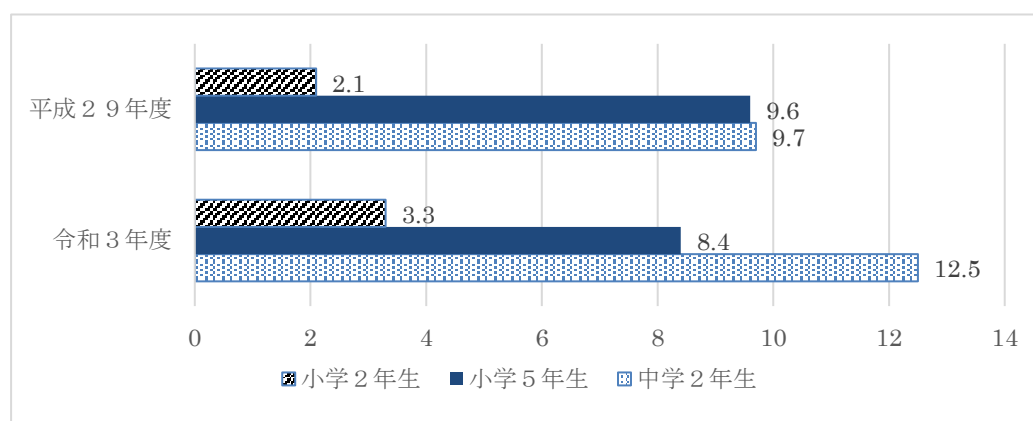
	平成29年度	令和3年度	令和4年度目標
小学2年生	93.3%	91.3%	98.0%
小学5年生	77.7%	81.3%	88.0%
中学2年生	78.5%	81.7%	84.0%



平成29年度と比べ、「本を読むことが好き」、「どちらかといえば好き」と回答した小学5年生は3.6ポイント、中学2年生は3.2ポイント増えてきましたが、小学2年生は2ポイント減少となりました。いずれの学年においても目標達成には至りませんでした。

(2) ひと月に本を読む冊数が「0冊」と答えた子どもの割合

	平成29年度	令和3年度	令和4年度目標
小学2年生	2.1%	3.3%	1.0%
小学5年生	9.6%	8.4%	8.0%
中学2年生	9.7%	12.5%	8.0%



平成29年度と比べ、本を1冊も読まない子どもの割合は、小学5年生では1.2ポイントの減少となりましたが、小学2年生は1.2ポイント、中学2年生は2.8ポイントの増加となりました。いずれも目標達成には至りませんでした。

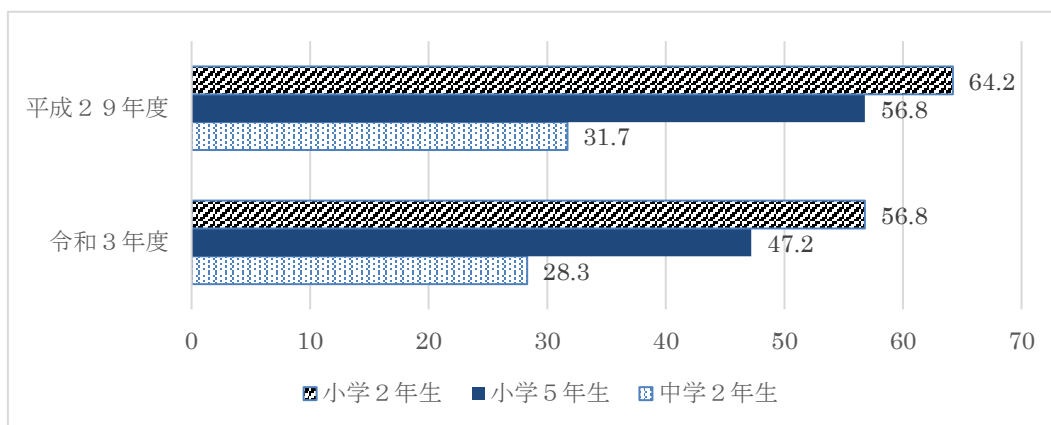
(3) 18歳以下人口一人当たりの図書館所蔵児童書貸出冊数

平成29年度	令和3年度	令和4年度目標
14.0冊	13.0冊	15.0冊

平成29年度と比べ、18歳以下人口一人当たりの貸出し数は1.0冊の減となりました。目標達成には至りませんでした。

(4) 市立図書館で本を「月に1回以上」あるいは「年に何回かは」借りると答えた子どもの割合

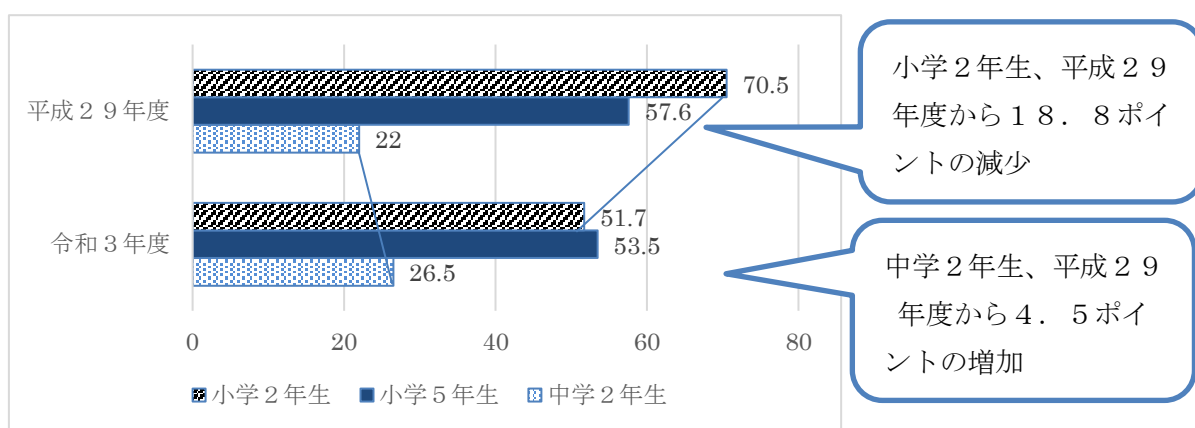
	平成29年度	令和3年度	令和4年度目標
小学2年生	64.2%	56.8%	68.0%
小学5年生	56.8%	47.2%	60.0%
中学2年生	31.7%	28.3%	34.0%



図書館の利用状況では、平成29年度と比べ、どの学年も減少となり目標達成には至りませんでした。新型コロナ対策のため、臨時休館があったことが要因と推測されます。

(5) 休み時間や放課後に学校図書館を「よく利用する」あるいは「ときどき利用する」と答えた子どもの割合

	平成29年度	令和3年度	令和4年度目標
小学2年生	70.5%	51.7%	74.0%
小学5年生	57.6%	53.5%	61.0%
中学2年生	22.0%	26.5%	27.0%



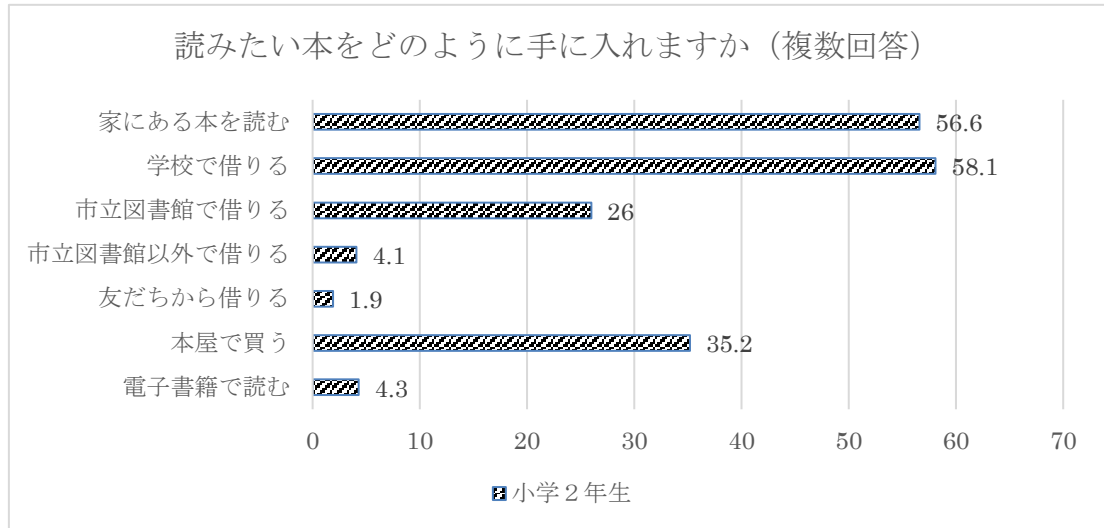
学校図書館の利用状況では、平成29年度と比べ、小学2年生で18.8ポイント、小学5年生では4.1ポイントの減少となりました。目標達成には到りませんでした。中学2年生では4.5ポイントの増加となりました。

3. アンケート調査からみる現状

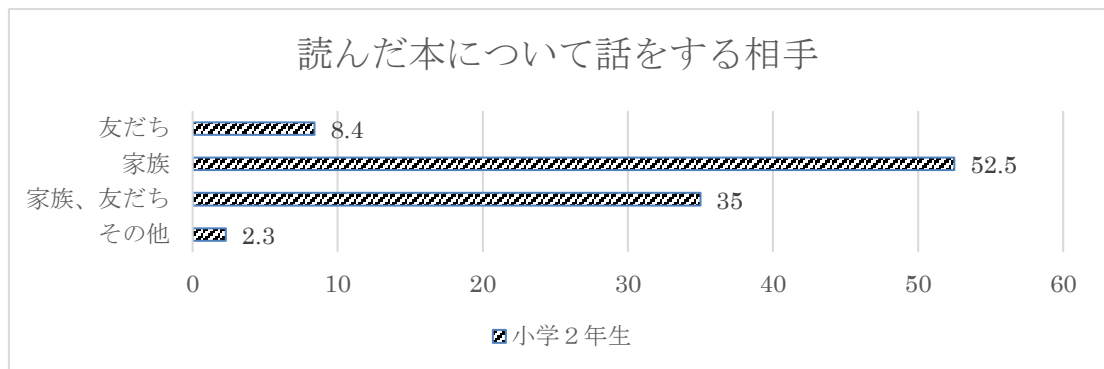
アンケート調査からみる主な状況は次のとおりです。

(1) 狭山市の小学2年生へのアンケート調査では、「読みたい本をどのようにして手にいれますか」の回答に、「学校で借りる」(58.1%)、「家にある本を読む」(56.6%)、「本屋で買う」(35.2%)とあり、「読んだ本について話をする相手」については、「家族」(52.5%)、「家族、友だち」(35.0%)、「友だち」(8.4%)とあります。このことから家や学校にある本を読み、家族と本について話をする割合が高いことがわかります。

読書に関するアンケート結果（児童・生徒）より



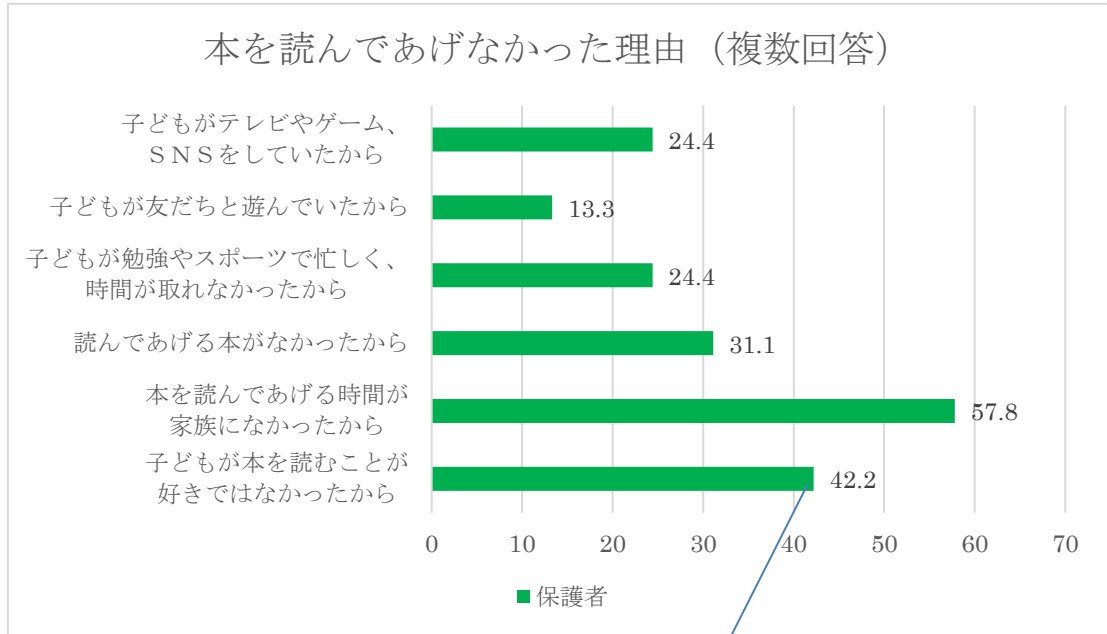
質問5より



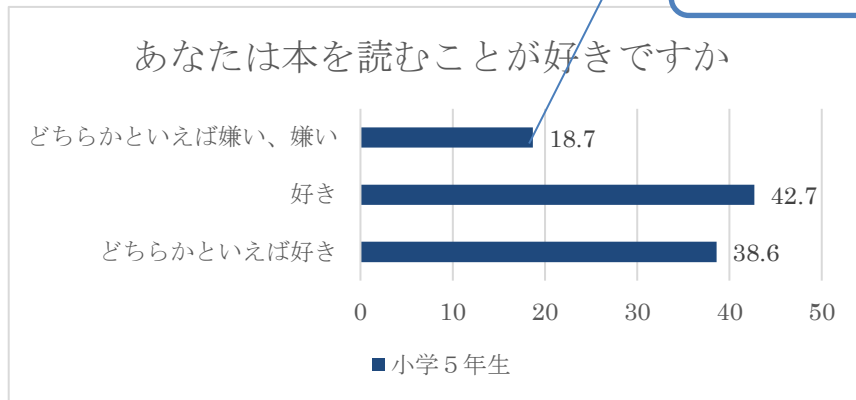
質問13より

(2) 保護者へのアンケート調査では、子どもに本を読んであげなかった理由として、42.2%の保護者が「子どもが本を読むことが好きではなかったから」をあげ、平成29年度の調査よりも割合が高くなっています。一方、小学5年生への質問では本を読むことは「どちらかといえば嫌い」「嫌い」を合わせると18.7%であり、そこには20ポイント以上の開きが見られます。

読書に関するアンケート結果（保護者）質問3より



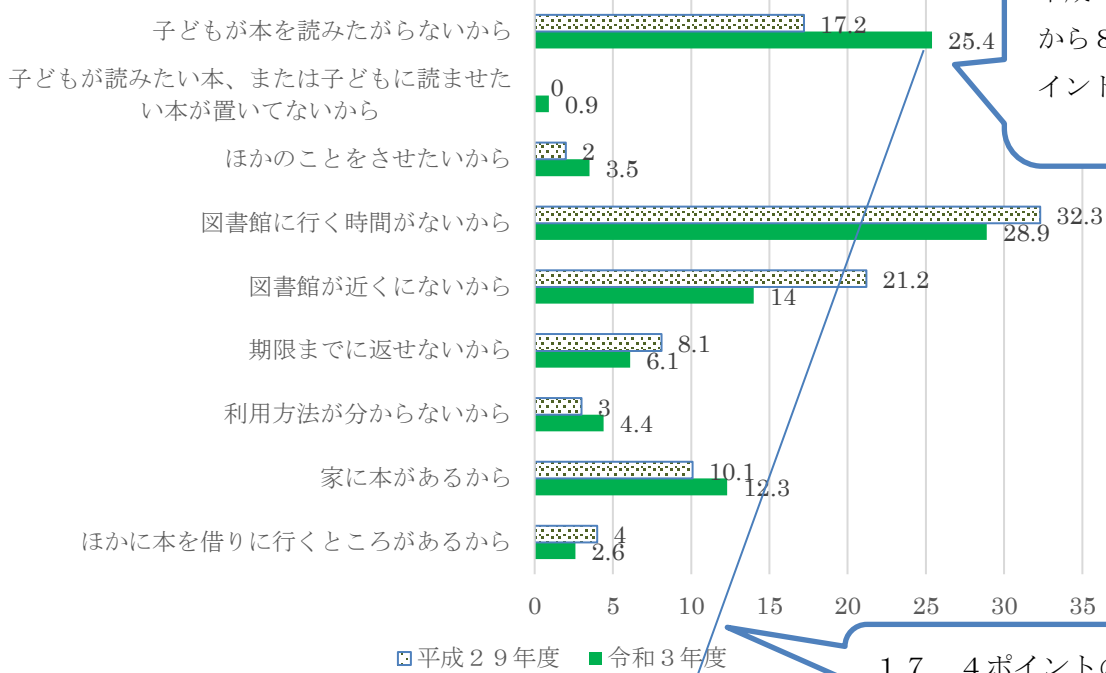
20ポイント以上の開きがある



読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問1より

- (3) 保護者へのアンケート調査では、子どもを図書館に連れて行かない（行かなかった）理由として「子どもが本を読みたがらないから」の回答が25.4%となり、平成29年度の調査の17.2%から8.2ポイント増加しています。一方、小学5年生への同様の質問では「本を読みたくないから」が8.0%となり、平成29年度の調査の17.7%から9.7ポイント減っています。このことから、保護者が思うよりも、子どもは本に興味を持っていることが推測されます。

保護者 市立図書館に連れて行かない理由（複数回答）

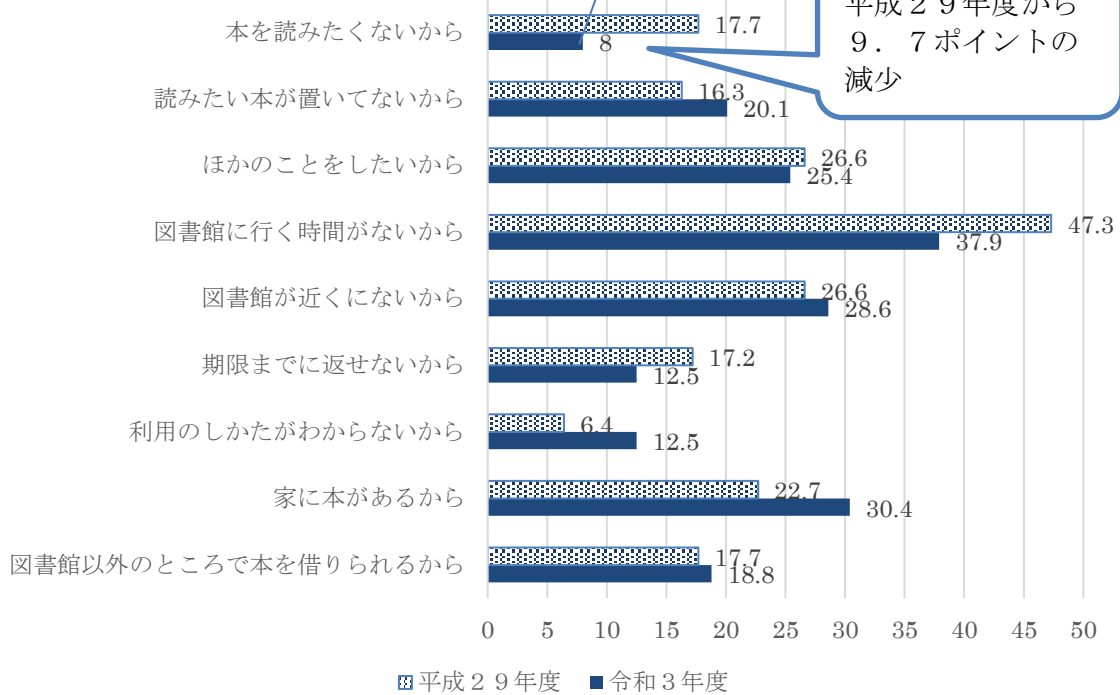


平成29年度から8.2ポイントの増加

17.4ポイントの開きがある

読書に関するアンケート結果（保護者）質問7より

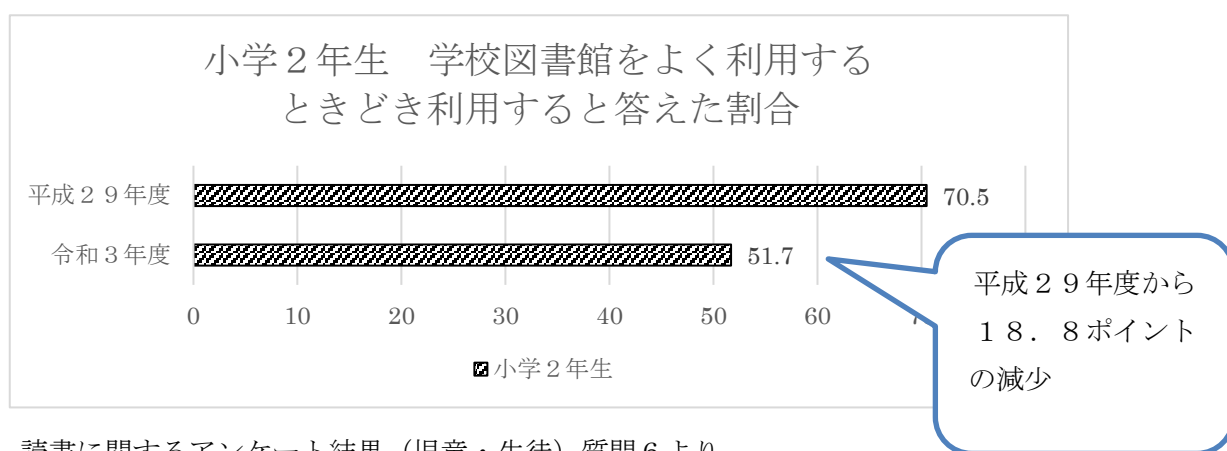
小学5年生 市立図書館で本を借りない理由（複数回答）



平成29年度から9.7ポイントの減少

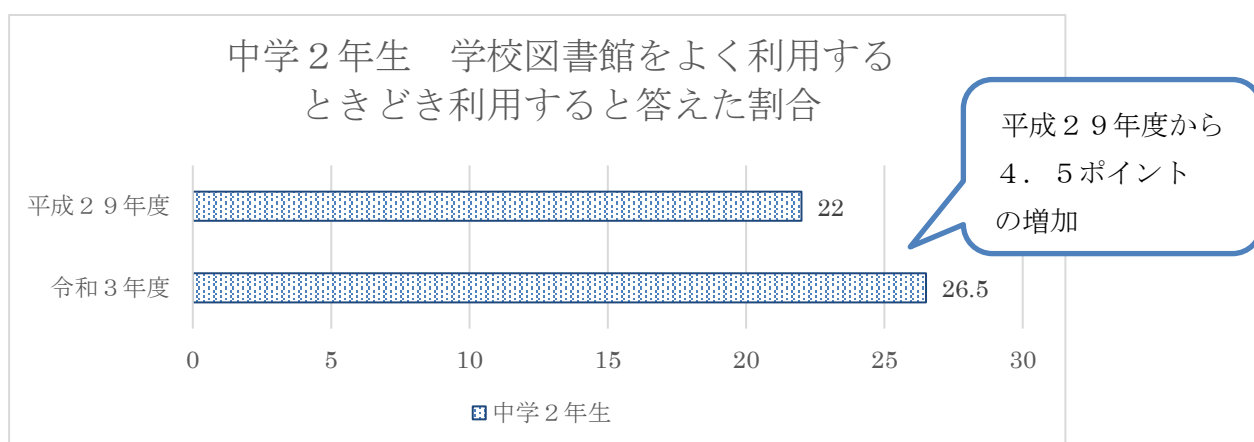
読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問10より

- (4) 小学生のアンケート調査では、読書活動の拠点となる図書館や学校図書館を利用すると答えた子どもの割合が減少しています。特に学校図書館を利用する割合は、小学2年生で18.8ポイント減少しました。その要因として、新型コロナ対策の影響によっては異学年交流を避けるために学校図書館の開館時間を制限したり、共用する本の貸出しを控えたりするなどの対応をしたことや、移動図書館「さみどり号」の巡回が行えない時期があったこと、図書館が休館したことなどにより、学校や地域の図書館に行く機会や意欲的に図書館を利用する意識が低下したことも要因の一つと推測できます。



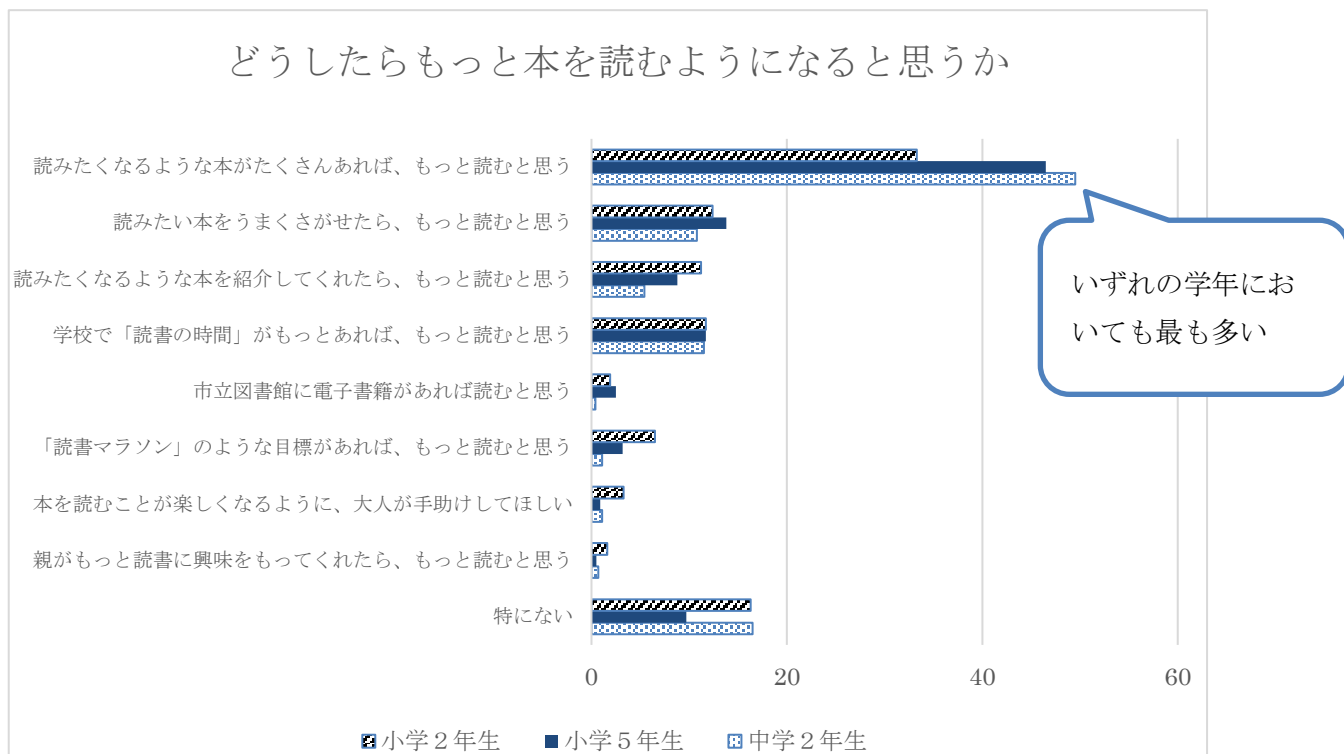
読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問6より

- (5) 中学2年生のアンケート調査では、学校図書館を利用すると答えた子どもの割合が増加しています。中学校は学校図書館司書が1人ずつ配置され、週の半分は人の手が入り、蔵書の整理と電算化が進んだことで学校図書館の環境が良くなったことや図書委員の活動が活発になったことが利用の増加につながったと推測されます。



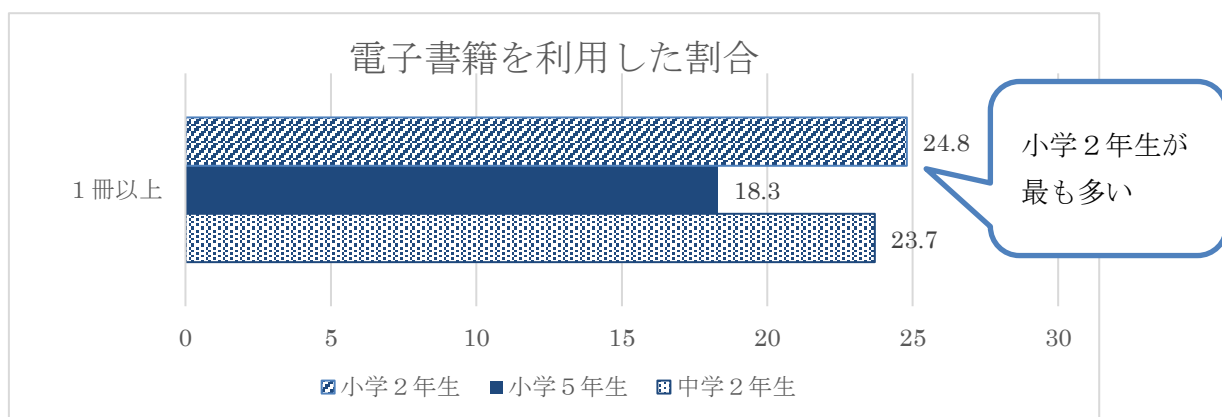
読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問6より

(6) アンケート調査では、「あなたは、どうしたらもっと本を読むようになると思うか」の問いに、「読みたくなるような本がたくさんあれば、もっと読むと思う」がいずれの学年においても最も多くなっています。



読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問11より

(7) 電子書籍を利用したと答えた割合は、小学2年生が最も多くなっています。どの学年も約7から8割は利用しておらず、読んでいる子どもも、その冊数は1冊から2冊と答える割合が高い結果となりました。



読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問4より

4. 今後の課題

国及び埼玉県の動向、第2次計画の実施状況、アンケート調査からみる現状などを踏まえた課題について、主なものは、次のとおりです。

(1) 子どもが読書に親しむ機会と環境の充実

- ・読書を習慣として身につけるため、子どもが身近に本に親しめる機会や、子どもが読みたい本と出会える環境を充実させることが必要です。
- ・保護者が思うより、子どもは本に興味を持っていることから、家庭における読書活動への理解の促進が必要です。
- ・読書活動の拠点となる図書館や小学校の学校図書館を利用する子どもの割合が減少していることから、利用しやすい、魅力のある図書館環境を整備することが必要です。
- ・子どもが身近に本に親しむために、あらゆる場面で、多くの施設において適切なサービスを提供することが必要です。
- ・中学2年生の学校図書館の利用率の増加は、学校図書館司書が週の半分を学校図書館業務に従事した効果と考えられることから、小・中学校の学校図書館司書の配置を更に充実させることが必要です。
- ・読書活動を推進していくためには、子どもと本をつなぐ活動をしているボランティアや団体の協力が不可欠であり、こうした団体などとの連携や活動の支援を充実することが必要です。

(2) 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

- ・子どもの読書活動を推進するためには、子どもの読書活動の意義や重要性について、保護者、保育士、図書館職員や教職員など子どもの周りにいる大人の理解と関心を深めることが必要です。
- ・「家庭読書の日」、「子ども読書の日」、「こどもの読書週間」などの機会を活かしながら、読書活動の推進を図ることが必要です。
- ・子どもに推奨したい本の紹介や、図書館や学校図書館の利活用について積極的にPRしていくことが必要です。